霞が関ミュージックサロン《五感の学校@広尾・スペシャル》

日本の感性を考える二日間

2023年　3月16日（木）、17日（金）　17：30～21：00

霞が関ナレッジスクエア

仙若/西田英智

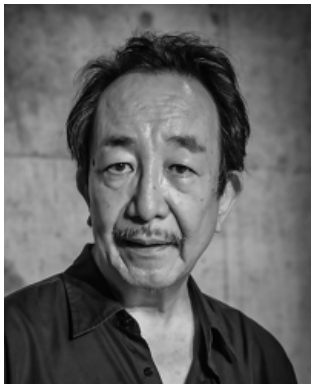
一龍斎貞弥

中村明一

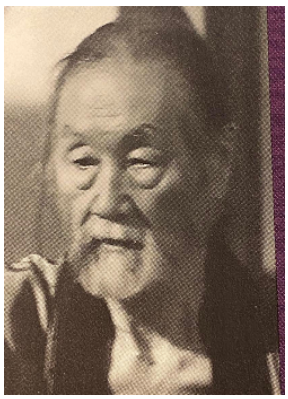
鳥越けい子

中嶋猛夫

リチャード・エマート



志賀信夫
photo by 小野塚誠



三浦一壮
photo by Rokka A ndo

佐藤慶子

竹林洋一

前原恵美

森正樹

音楽家佐藤慶子が代表を務めるMuCuLは2014年4月より五感に端を発する幅広いジャンルにまたがる文化講座《五感の学校@広尾》を開催してきました。その間世界の情勢はA.Iやロボットの目覚ましい発展、また国家のあり方など大きく変化しつつあります。
私たちは何を携え、どこへ向かうのか。そこで講座が４月で10周年を迎えるにあたり、日本の感性をテーマに我が国の伝統文化を実演とレクチャーを通して振り返り、その継承と発展、未来を共に考える二日間のスペシャルイベントを開催します。

《プログラム》

3月16日「我が国の伝統文化から」

一部　伝統文化芸能文化から

１　「江戸太神楽」　実演とお話

仙若（江戸太神楽師/風来舎代表）
1989年『将門』（シアターアプル）で初舞台。以降、小劇場を中心に役者として活動。1997年に、ウィーン在住のアンドレ・ヘラー演出の舞台『ＹＵＭＥ』に出演し、ドイツ、スイス、オーストリアの29か所を巡演した際、改めて日本の伝統芸能の素晴らしさに強い感銘を受け、1998 年より、江戸太神楽(えどだいかぐら)を、13代家元・鏡味小仙（※現・丸一仙翁）に師事。 以降、仙若(せんわか)という名を拝命し、国内・外を問わず、様々な舞台、イベント、フェスティバルなどに出演。

２　「講談」　実演とお話

一龍斎貞弥（講談師、声優・ナレーター）
日本女子大学を卒業後、外資系ホテルなどでの勤務を経て演劇を学び、声優・ナレーターとして声の方面で芸歴を重ねる。
2004年、表現の幅を広げるべく参加した講談セミナーで現在の師匠一龍斎貞花と出会い、2007年10月に弟子入り。12月より講談協会前座。
2011年10月二つ目昇進。
2022年9月に真打に昇進。
数々の機械音声を担当し「声のプロフェッショナル」としても注目を集めている。

３　「倍音」　実演とお話

中村 明一（作曲家・尺八演奏家）
横山勝也師、多数の虚無僧尺八家に師事。横浜国大応用化学科、米国バークリー音楽大学、ニューイングランド音楽院大学院出身。世界40カ国余150都市以上で公演。文化庁芸術祭優秀賞（2回）、文化庁舞台芸術創作奨励賞など受賞多数。著書に『倍音』（春秋社）、『「密息」で身体が変わる』（新潮社）。東京学芸大学、山梨学院大学、桐朋学園芸術短大、洗足学園音楽大学大学院講師。日本現代音楽協会会員。https://akikazu.jp/

「鶴の巣籠（つるのすごもり)」曲解説
傷ついたつがいの鶴が朝焼けの中を飛来し、巣をつくり、卵を孵し、雛を育て、やがて子別れし、死を迎えるに至るまでを、具象的に描写している。鶴の一生を通して、「大慈大悲」を表す曲とされている。具体的なストーリーを持つ曲は虚無僧本曲には非常に珍しい。
演奏には、コロコロ、カラカラ、玉音（たまね＝喉によるトリル）、束音(たばね＝舌によるトリル)、などといった、様々な技巧が駆使される。これらの技巧により、鶴の親子の羽ばたきや鳴き声を模し、ある時はこれらを複合して、またある時は重音を用いて、親子を表現する。最たる部分に於いては、コロコロ、玉音、四～五音の重音を複合して、二羽の親鶴と複数の雛の鳴き声、羽ばたきをすべて同時に表現している。後半にさしかかる部分で、音階の異なる旋律が出現して、不思議な感覚を与えるが、この旋律は「子別れの旋律」と呼ばれている。
「鶴の巣籠」は全国に数多くの同名異曲が伝わっている。その数は２０種類以上のものぼり、細かいヴァリアンテを含めれば、数限りなく存在するともいわれる。
この曲は、岩手の松厳軒(しょうがんけん)伝承、あるいは宮城の布袋軒(ふたいけん)伝承といわれる曲。津軽の根笹派錦風流との関連を説く説もある。数ある「鶴の巣籠」の中でも最も技巧に富み、複雑な構造を持ったヴァージョンといえる。

二部　風土と感性

４　「音の風景と美学」　レクチャー

鳥越けい子（音風景研究家、青山学院大学総合文化政策学部教授、日本サウンドスケープ協会代

表理事）
西洋近代文明の「枠組み見直し」にも繋がるサウンドスケープ概念を研究し、自然環境に根ざした生活文化の継承や新たな活用を視座に入れた環境デザイン、まちづくりやワークショップ、コミュニティ・アート等のプロジェクトを展開している。 【プロジェクト】瀧廉太郎記念館庭園音環境計画(1992)、富山県立山博物館：五響の森まんだら遊苑音環境デザイン、SCAPEWORKS 百軒店-円山町（2009-）、 池の畔の遊歩音楽会：跡地巡礼(2020-)等。著書『サウンドスケープ：その思想と実践』(鹿島出版会)、『サウンドスケープの詩学：フィールド篇』（春秋社）、共訳書 R.M.シェーファー著『サウンドエデュケーション』（春秋社）、同『世界の調律』平凡社）等
http://www.keikotorigoe.com/

５　「風土と感性（気候、風土による住と庭）」　レクチャー

中嶋猛夫（環境デザイナー、学術博士、女子美術大学名誉教授、日本デザイン学会名誉会員）
1947 年(昭和 22) 東京 生
1972 年 東京芸術大学　工業デザイン専攻 卒業
　　・京都、植藤造園就職(円山公園の桜守：佐野藤工門)・桂、修学院離宮ほか造園実務を修行。
1975 年　独立、デザイン設計活動始める。
1977 年 東京芸術大学大学院博士課程入学　環境デザイン専攻
1985 年 同上　修了　（学術博士取得）　学位論文「日本の山岳寺院神社の境内構成（景観論）」
女子美術大学芸術学部デザイン学科助教授（1990～98）、同大学教授（98～2014）
2008～2018 年 東京農業大学 大学院造園専攻　講師
その間、国内外の都市、庭園、宗教空間など調査。

3 月 17 日「つなぐ」
三部　多様性から未来へ

１　「能～外国人からみた日本の伝統文化と感性～」　実演と話

リチャド・エマート（能楽教士・作曲家）
武蔵野大学名誉教授。能の喜多流仕舞教士。英語能劇団「シアター能楽」創立者。英語能作曲、演出を数多く手がけ。最近フランス語能とスペイン語能も作曲ある。国内外で能のワークショップ、公演などを行う。国立能楽堂出版の英語能解説書シリーズや能サマリーシリーズの作者。2019 年度小泉文夫音楽賞受賞。

２　「舞踏と風土」　レクチャー

志賀信夫（批評家、ライター、編集者）
大学等講師。舞踊批評家協会、舞踊学会会員。講評・審査、トーク、公演・展覧会企画等。著書『舞踏家は語る』編著『邦千谷の世界』共著『美学校 1969～2019』『踊る人にきく』『錬肉工房 1971-2017』『吉本隆明論集』『フランス語で広がる世界』『講談社 類語大辞典』。『図書新聞』『週刊読書人』『ダンスワーク』『TH 叢書』『ExtrART』等に執筆。身体表現批評誌『コルプス』主宰。

３　「うた舞ひ」　舞踏：**三浦一壮**（舞踏家）
音楽：**佐藤慶子**（マルチ音楽家、MuCuL 及び《声ぢから道場》代表）

三浦一壮
平城生まれ 1937 年
及川広信、大野一雄、安堂信也等に師事
1975 年フランス　Nancy 演劇祭で世界デビュー　ピナバウシュ　カントール
グロトウスキ　E バルバに出逢う…フランス□□□
ポーランド□□を中心にヨーロッパ各地を舞踏とワークショップで巡る。1989 年ベルリン東西統一に遭遇 ART 活動中止
2018 年ラテンアメリカペルー□□□のアヤクーチョから　突然の招請状　ART 活動復帰を決意

以来日本にても活動開始。80歳を機に老いる身体と向き合い6年　昨年はヨーロッパツアー。

佐藤慶子
《五感の音楽》を提唱し作曲、Visual Music映像、コンサートやパフォーマンスを日本、ニューヨーク、モナコ、スペイン等で展開。2009年より《音女otome》の名前で「万葉集」をモチーフとしたオリジナル歌を作曲、日本の古典と現代をミックスした弾き語りコンサートを継続開催。映画、演劇、コンサートプロデュース多数。長年にわたるろう者と共有する音楽活動は評価が高い。【受賞】キリンアートアワード賞、日本絵本賞受賞等【youtube】・万葉弾き語り音女佐藤慶子　・株式会社MuCuL

４　「AIとメタバースが拓く伝統・文化・学びの未来と健康長寿社会」レクチャー

竹林洋一（静岡大学名誉教授,みんなの認知症情報学会理事長,創造する心株式会社代表取締役）
東芝に入社後MITメディアラボ滞在をきっかけに人工知能の父と言われるマーヴィン・ミンスキー博士の知遇を得る。その後東芝研究開発センター技監・静岡大学教授・人工知能学会理事：情報処理学会理事などを歴任し、静岡大学名誉教授、現在はみんなの認知症情報学会理事長、創造する心株式会社代表取締役として、AIとメタバースを活用した学びの学習環境構築、ケア情報学の研究、価値・人・地域づくりに取り組んでいる。

四部　パネルディスカッション「日本の感性」

５　「日本の感性」　パネルディスカッション

パネリスト
仙若　一龍齋貞也　中村明一　鳥越けい子　中嶋猛夫　リチャード・エマート　志賀信夫
三浦一壮　佐藤慶子　竹林洋一　前原恵美

前原恵美　（独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所 無形文化財研究室長）
東京藝術大学大学院博士課程（音楽学）単位取得満期退学。1991年より五世常磐津文字兵衛に師事、常磐津紫緒の名を許される。99年「第15回清栄会奨励賞」（研究者部門）受賞。独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所へ。古典芸能や無形文化財の研究と並行して、演奏活動もしている。単書に『常磐津林中の音楽活動の軌跡：盛岡市先人記念館所蔵林中本を手掛かりに』（武久出版2013年）

MC：**森正樹**
出版編集者。㈱ITSC/静岡学術出版顧問、Art Gallery 884 Advisor。元オーム社代表取締役専務、元NPO e-コミュニケーション・コンソーシアム理事・事務局長、元静岡大学客員教授。

●料金：二日通し5000円　一日3000円
●振込先：**三井住友銀行　恵比寿支店　普通　７８４３４８３（株）ミュウカル**
●申込先：MuCuL
150-0013東京都渋谷区恵比寿2-21-3　Tel.03-3446-2618　Mobile.090－9804－1167
E-mail　e-mucul@e-mucul.com　https://secure01.blue.shared-server.net/www.e-mucul.com/

●会場：霞が関ナレッジスクエア　スタジオ
〒100-0013　東京都千代田区霞が関3-2-1 霞が関コモンゲート　西館ショップ＆レストラン3F（西館奥 エスカレーター上がる）
https://www.kk2.ne.jp/kk2/

アドバイザー：森正樹　臼井支朗　湯川敬弘　大岩元　飯田吉秋　竹林洋一
協力：霞が関ナレッジスクエア
企画・主宰：佐藤慶子　五感の学校@広尾　霞が関ミュージックサロン
制作：佐藤直陽　　主催：MuCuL